

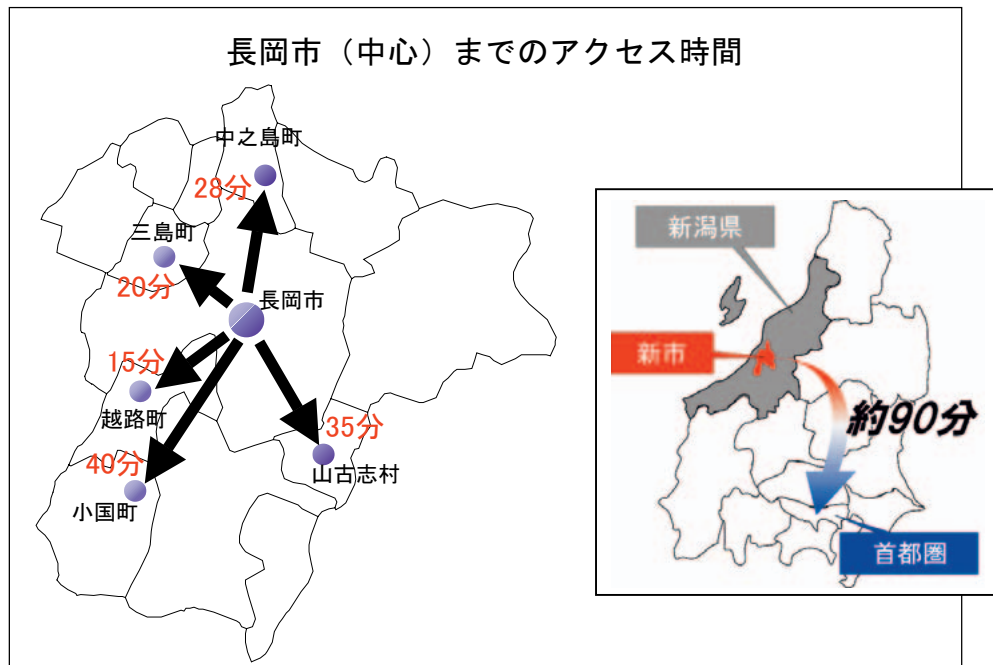
第1章 新市の概況からみた可能性

ここでは、新市の現状を概観しながら、新市の持っている特性や今後の可能性についての検討・考察を行いました。

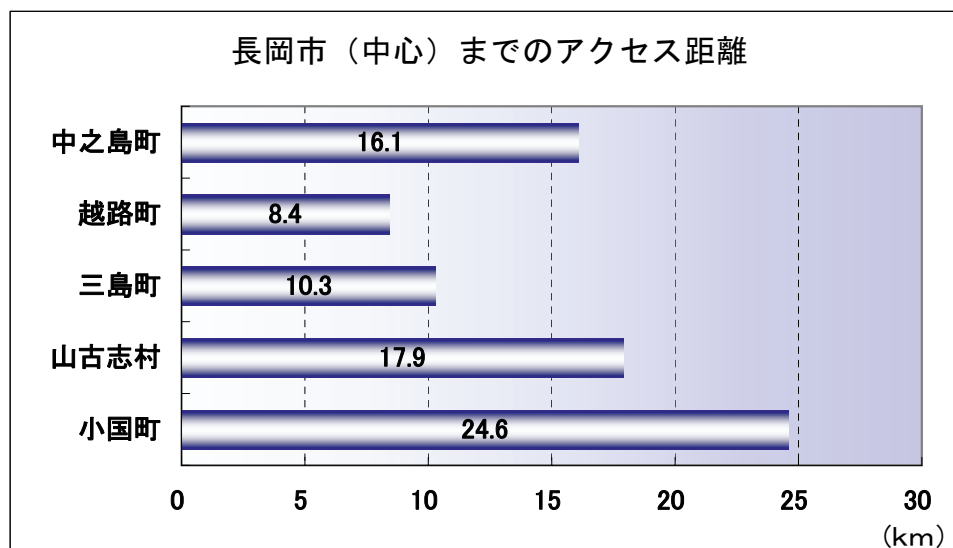
1. 新市の概況

(1) 位置・地勢

- ◇各地域から新市の中心部までのアクセス距離をみると、約 25km 圏域となっており、アクセス時間では各地域が約 30 分～40 分圏域に含まれます。
- ◇モータリゼーションの進展に加え、各地域のアクセス性の高さを活かし、人々の暮らしや地域交流の広域化に対応したまちづくりを一体的に進めていくことができます。

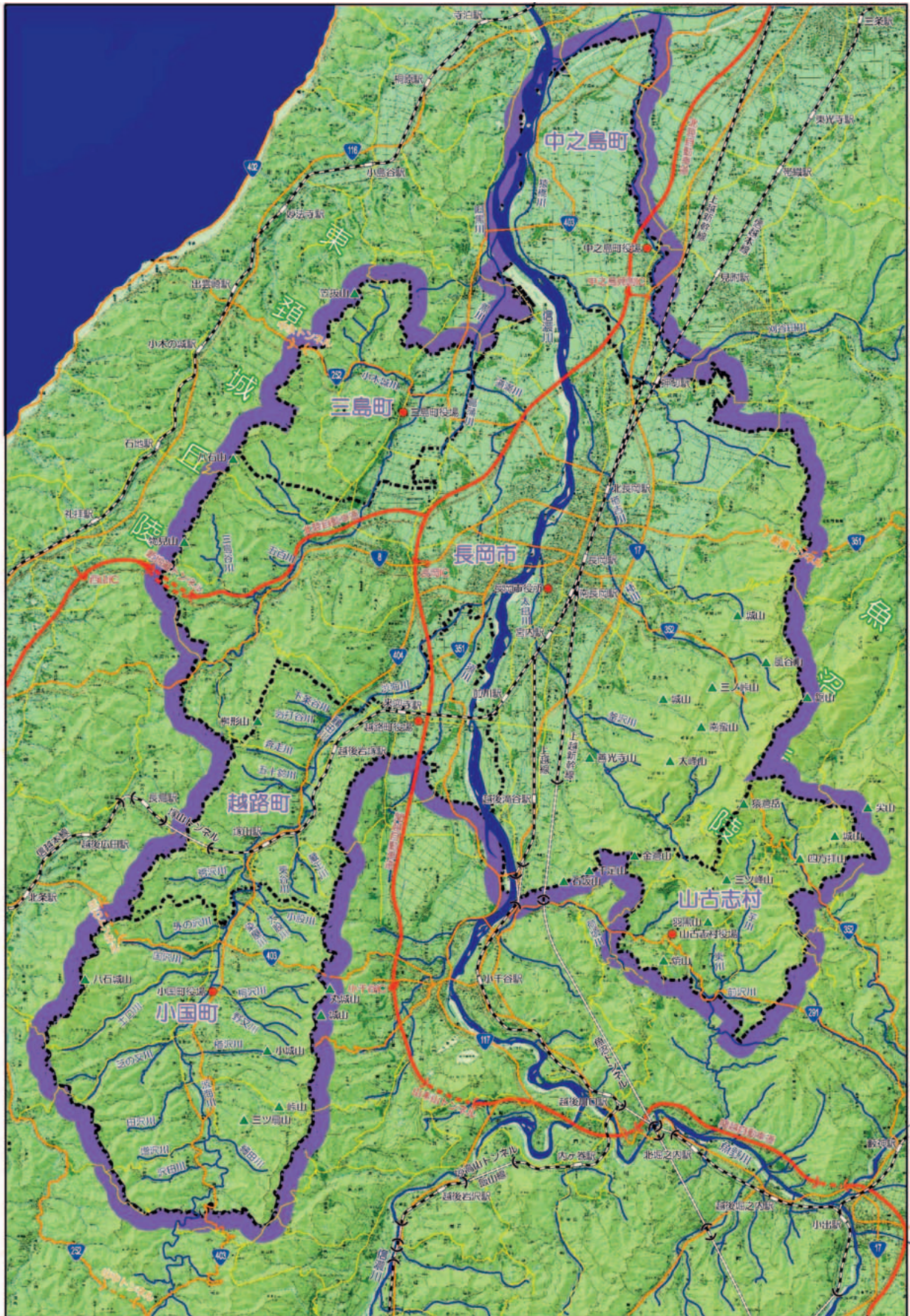


資料：長岡地域合併協議会事務局調べ



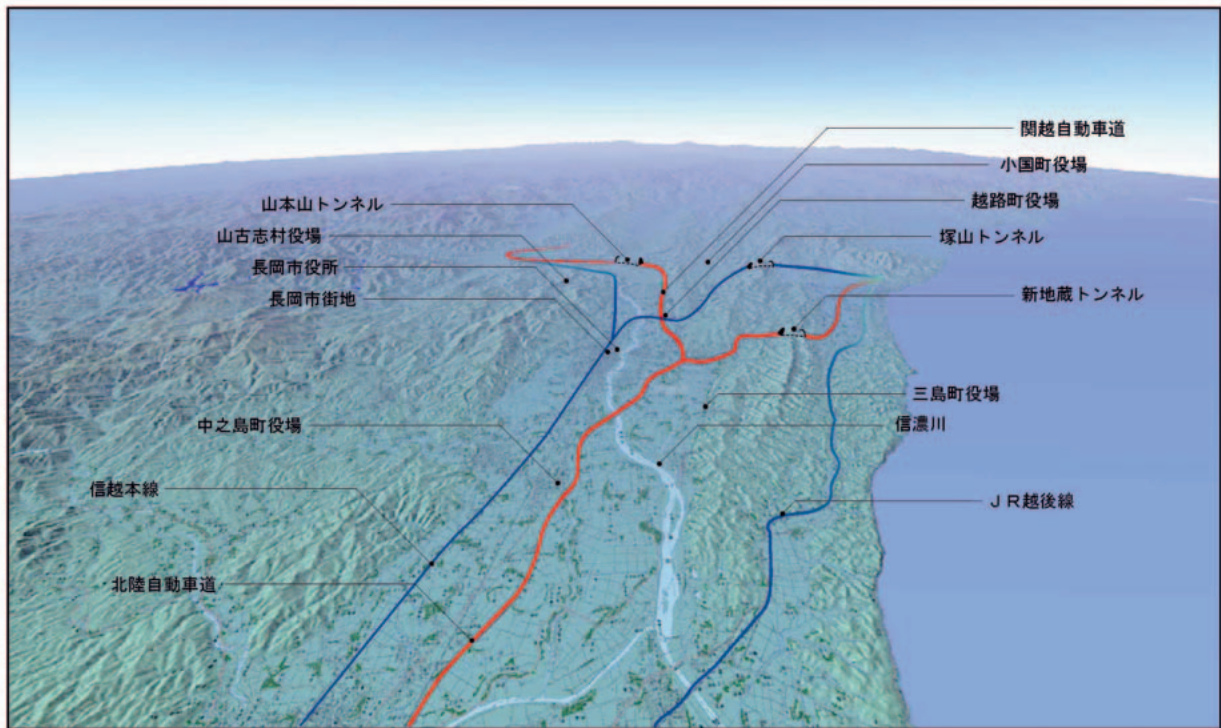
資料：長岡地域合併協議会事務局調べ

■新市全体図



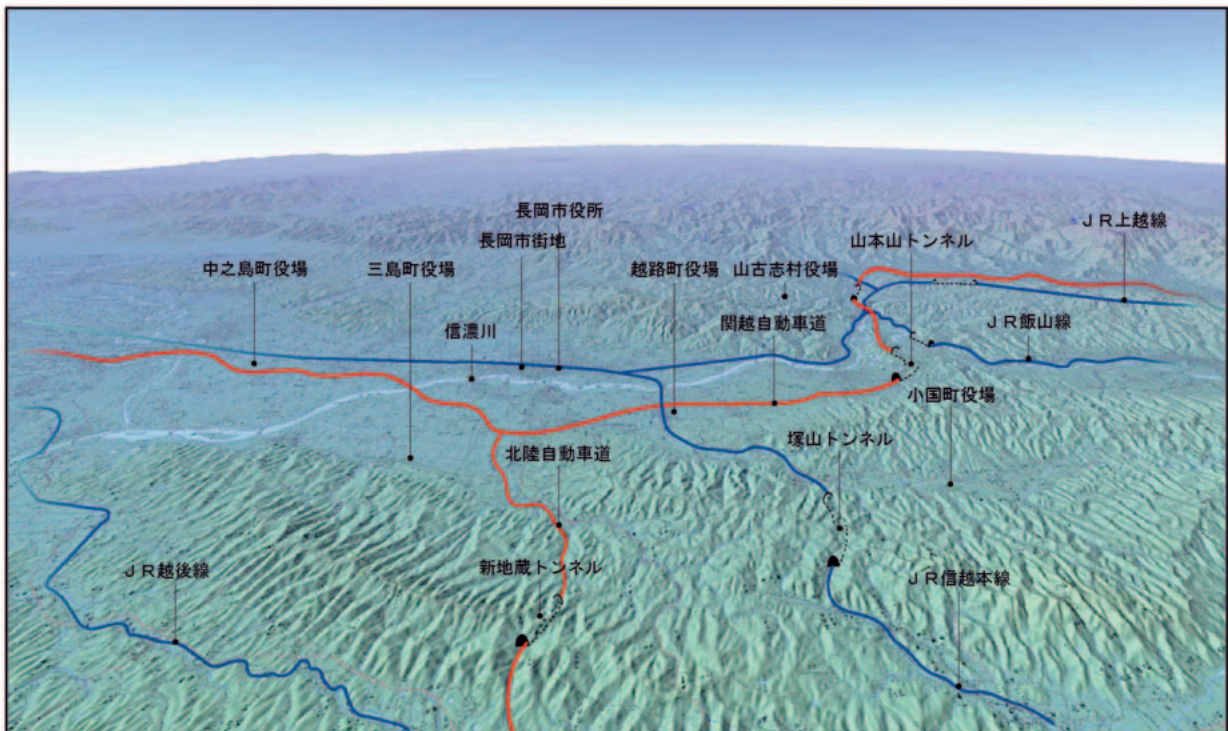
杉本智彦氏作成ソフト「カシ米尔3D」使用

■中之島町上空から見る新市の姿



杉本智彦氏作成ソフト「カシミール3D」使用

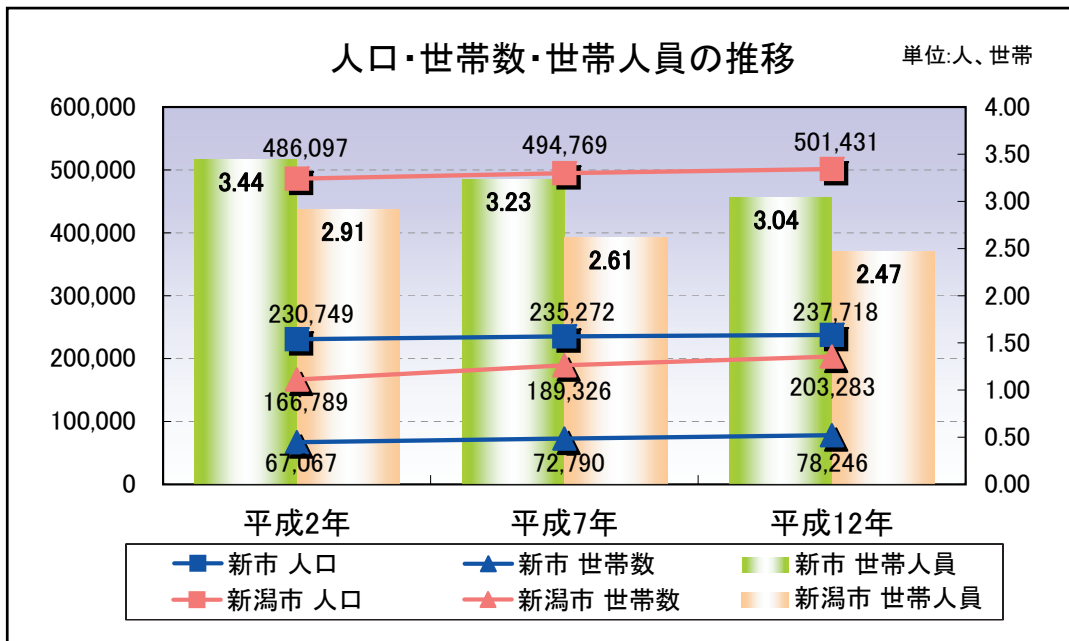
■三島町上空から見る新市の姿



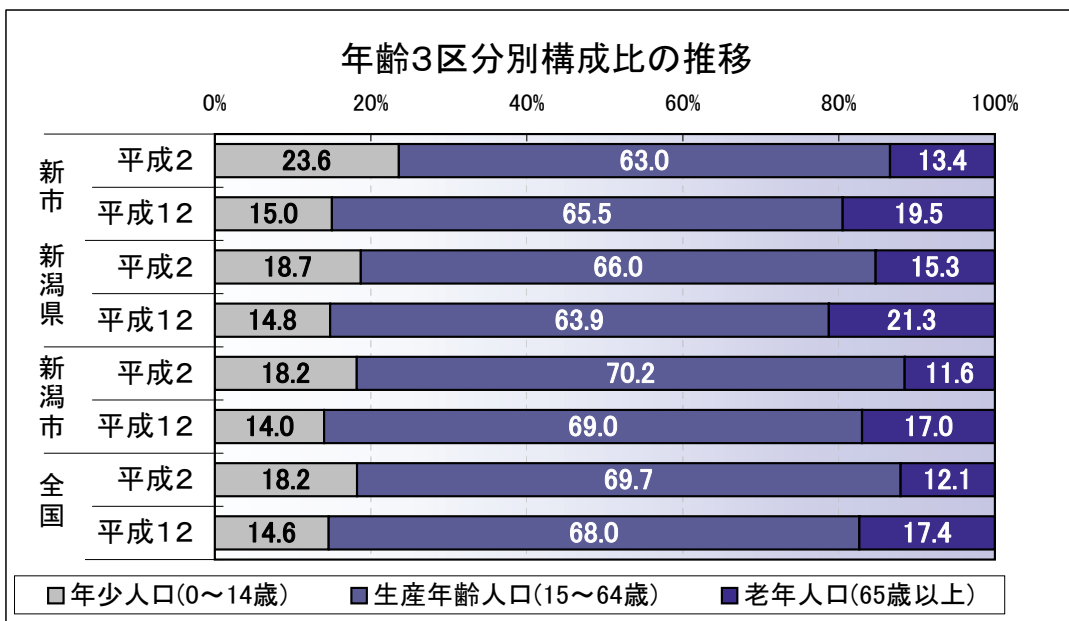
杉本智彦氏作成ソフト「カシミール3D」使用

(2) 人口・世帯

- ◇新市の人口は、平成12年の国勢調査の時点で、237,718人であり、新潟県総人口の約1割を占めています。
- ◇新市の人口の推移は、緩やかに上昇しています。また、年少人口の割合が比較的多くなっています。



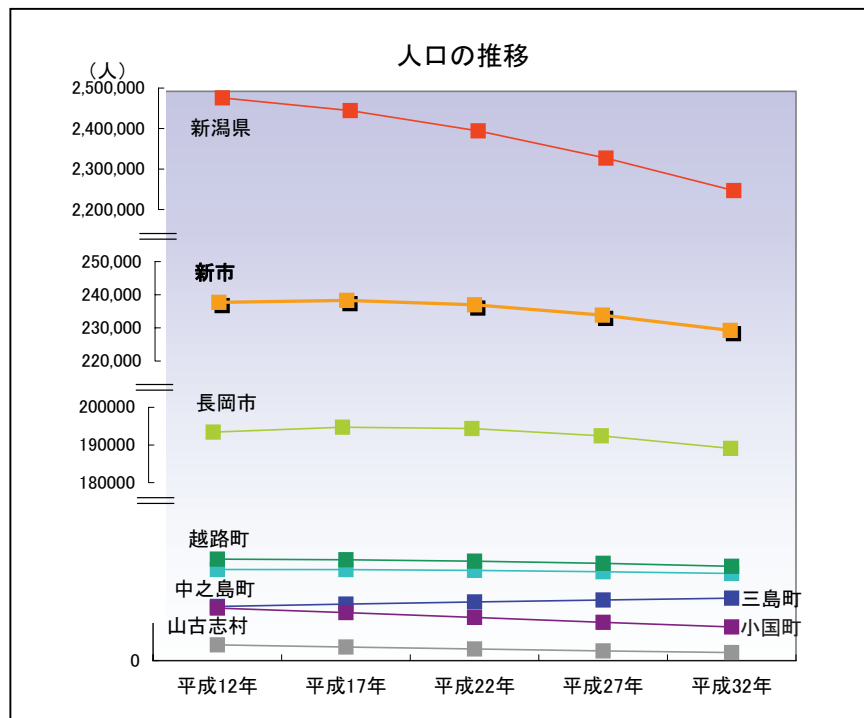
資料：国勢調査



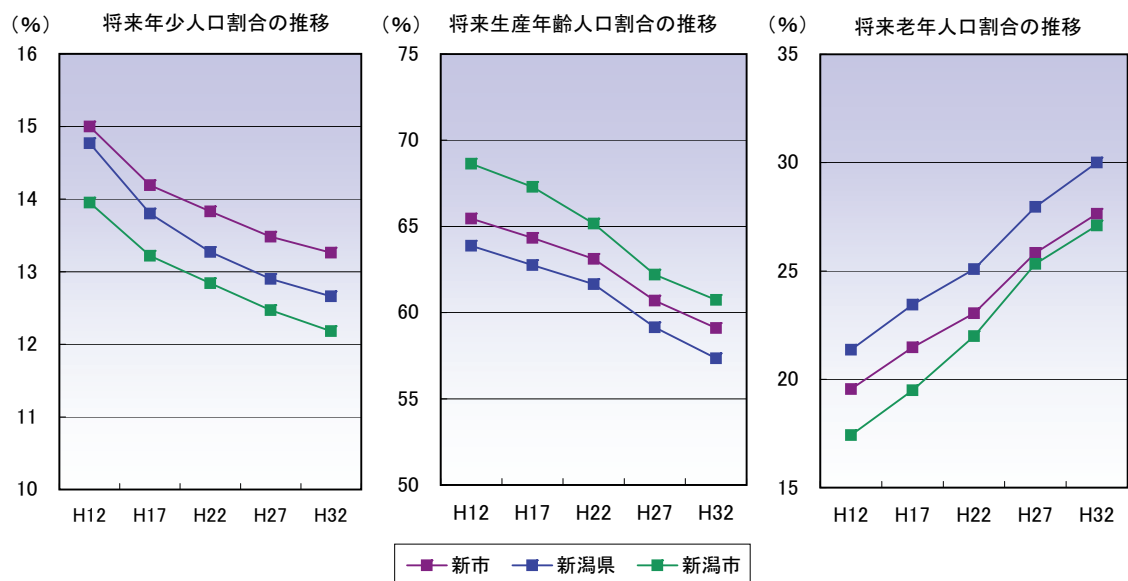
資料：国勢調査

(3) 人口動態の見通し

- ◇人口動態の見通しでは、新市は平成17年から緩やかに減少していくものと推計されています。
- ◇年齢区分人口割合は、新潟県・新潟市とほぼ同様に、年少人口・生産年齢人口は減少、老年人口は増加していくものと予測されます。



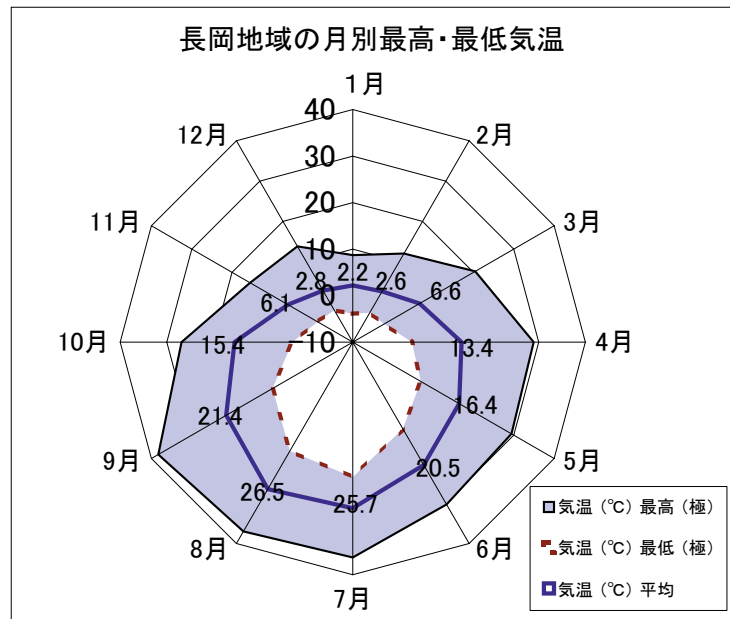
資料：平成14年3月 市町村の将来人口（日本統計協会）



資料：平成14年3月 市町村の将来人口（日本統計協会）

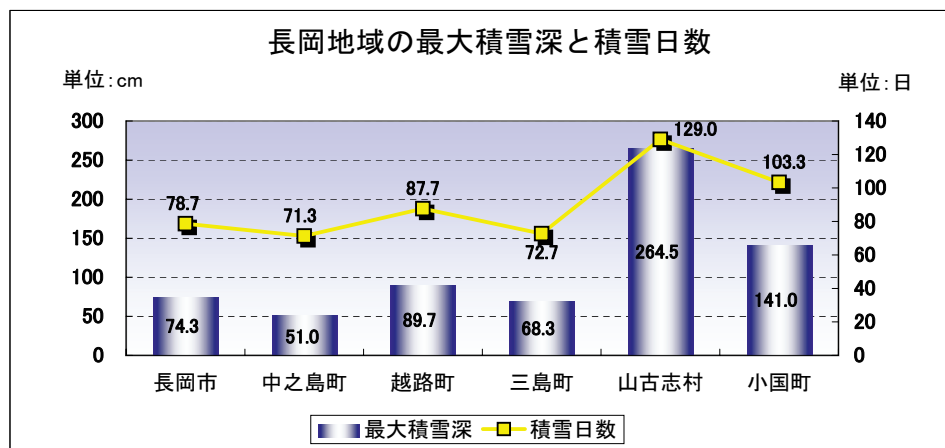
(4) 気象

- ◇新市の夏期の月平均気温は 25 度前後で、冬期には積雪の多い地域と少ない地域があります。
- ◇積雪日数は 70 日から 129 日となっており、こうした気象上の特徴を活かして、雪を利用した観光活動を提案することのできる地域です。



資料：新潟地方気象台

※平均気温は平成 14 年度の毎正時(24 回)の観測値を平均したもの



資料：新潟地方気象台
中之島町・三島町役場調べ

※積雪深、積雪日数ともに平成 11 年度初雪時から平成 14 年度 4 月最終積雪時までの平均値
※積雪日数は、観測値が 1cm 以上の日数

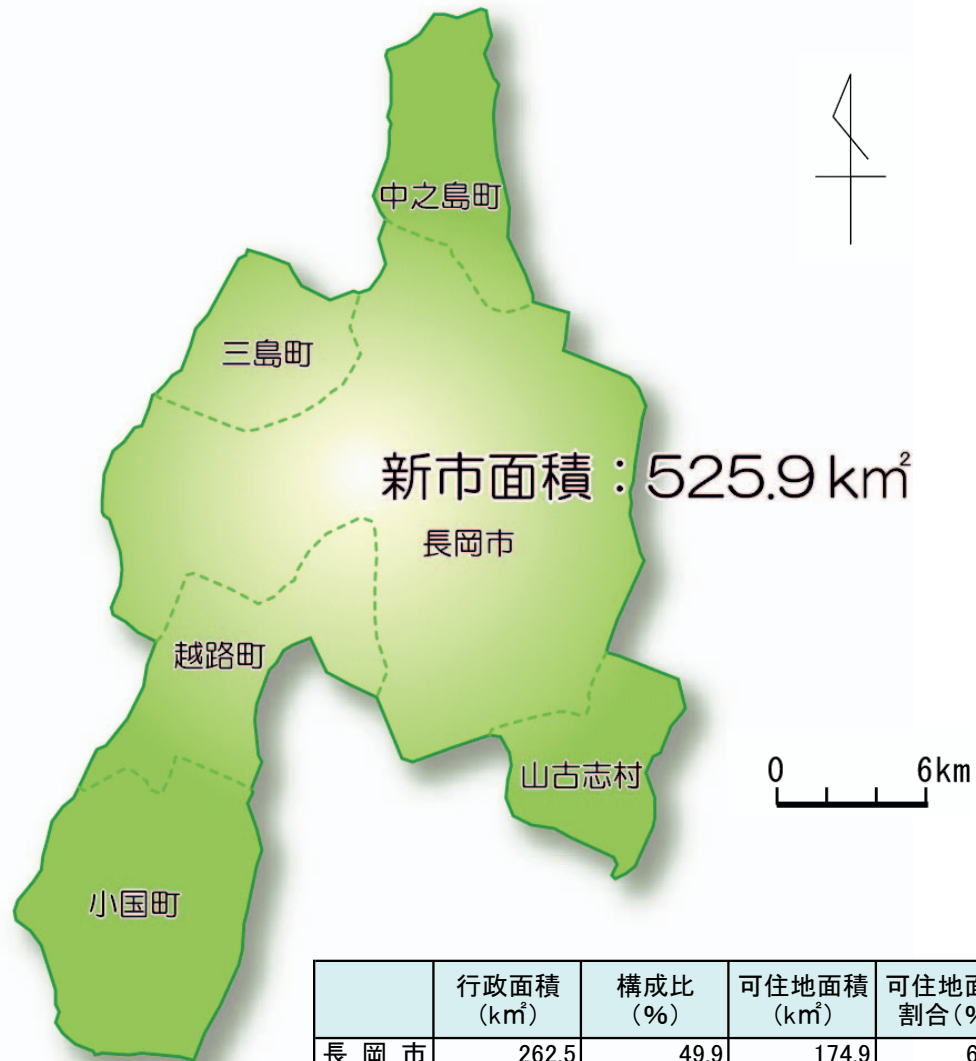
冬期間の晴天率 (平成 15 年度実績)

晴天率	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	平均
	—	—	23%	42%	30%	—	—	32%

資料：長岡市営スキー場調べ

(5) 面積

- ◇新市における行政面積は525.9 km²で、新潟県全体の約4%を占めます。
- ◇新市は、可住地面積の割合が新潟県・全国より高く約6割となっており、平地部の割合が高いといえます。

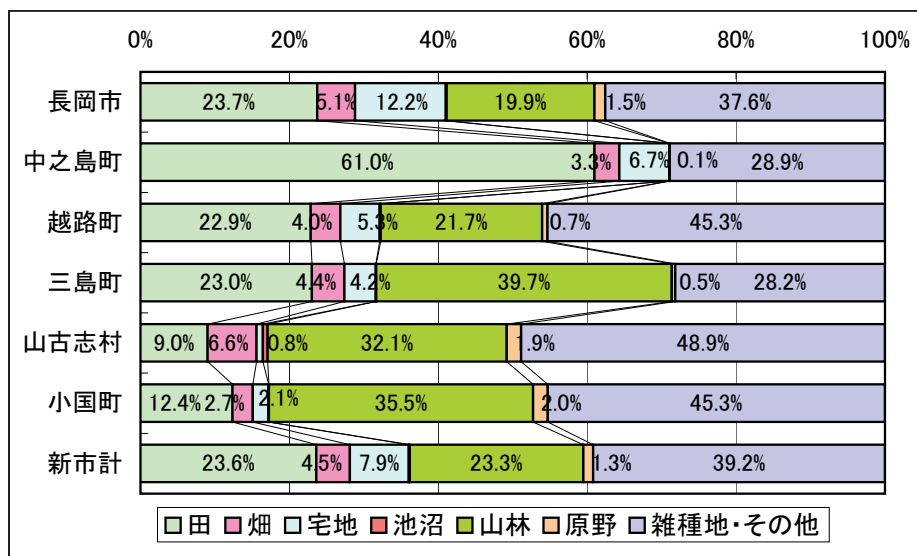
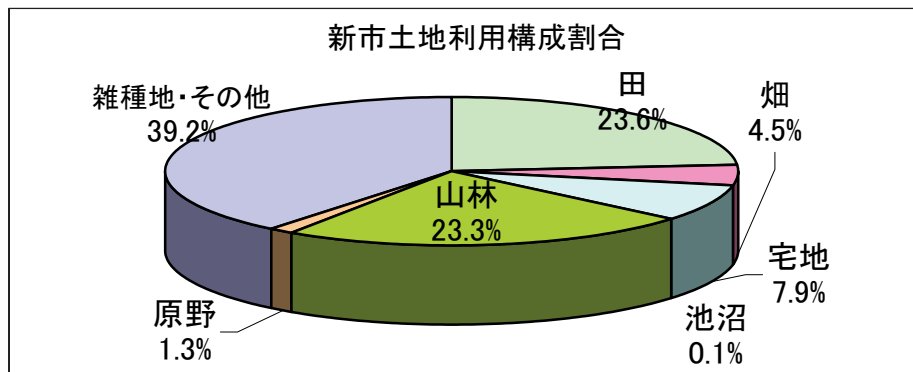


	行政面積 (km ²)	構成比 (%)	可住地面積 (km ²)	可住地面積 割合 (%)
長岡市	262.5	49.9	174.9	66.6
中之島町	42.6	8.1	42.6	100.0
越路町	58.4	11.1	33.7	57.7
三島町	36.5	6.9	14.3	39.2
山古志村	39.8	7.6	15.6	39.2
小国町	86.1	16.4	29.4	34.2
新市計	525.9	100.0	310.5	59.0
新潟県	12,582.4		4,481.3	35.6
全 国	377,863.7		125,162.3	33.1

資料：平成13年 新潟県統計年鑑
 平成15年 統計でみる市区町村のすがた
 地域経済総覧2003（国土地理院）
 ※可住地面積は、行政面積より林野・主要湖沼面積を差し引いた面積

(6) 土地利用

- ◇新市の土地利用の現況をみると、田が全体の23.6%、山林が23.3%を占めており、日本の原風景が残された、自然豊かな地域であることがわかります。
- ◇各地域ごとの土地利用に特色があり、さまざまな景観を楽しむことができることから、地域特性を活かしたまちづくりを進めていくことができます。



土地の利用状況

市町村名	田 (ha)	畑 (ha)	宅地 (ha)	池沼 (ha)	山林 (ha)	原野 (ha)	雑種地・その他 (ha)	総数 (ha)
長岡市	6,230.3	1,334.3	3,197.9	29.8	5,211.2	382.0	9,859.6	26,245.0
中之島町	2,594.9	142.5	285.6	0.1	0.0	2.4	1,229.5	4,255.0
越路町	1,336.8	232.7	308.0	8.5	1,266.9	42.5	2,648.7	5,844.0
三島町	839.9	159.1	153.9	2.3	1,447.8	16.6	1,027.5	3,647.0
山古志村	359.5	261.9	33.4	25.8	1,278.8	77.0	1,946.5	3,983.0
小国町	1,064.7	234.6	183.9	2.7	3,056.7	171.2	3,901.2	8,615.0
新市計	12,426.1	2,365.1	4,162.6	69.1	12,261.4	691.7	20,613.0	52,589.0

※雑種地・その他の内容について

雑種地: ゴルフ場、遊園地、運動場、野球場、競馬場、他それに類する区分

その他: 墓地、境内、運河、水道用地、ため池、保安林、堤、公園、公衆用道路

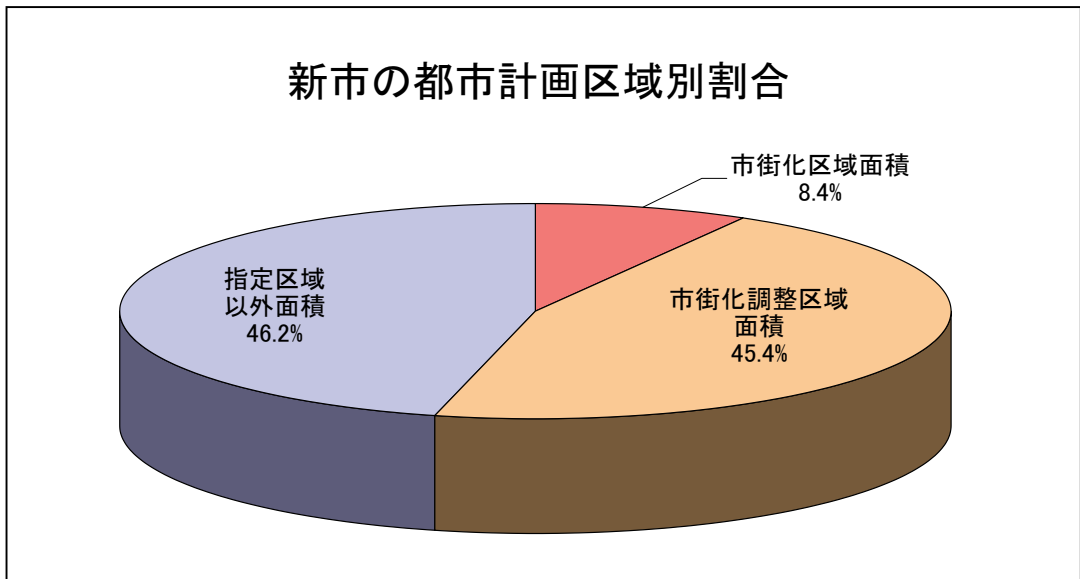
資料: 平成15年 新潟県統計データハンドブック

(7) 都市計画区域

- ◇新市における都市計画区域面積は行政面積の53.8%にあたり、用途地域面積、市街化区域面積はともに8.4%となっています。
- ◇人口集中地区面積は、行政面積のうちの4.0%になっています。

単位:ha

市町村名	行政面積	都市計画区域面積	都市計画区域面積割合(%)	用途地域面積	用途地域面積割合(%)	市街化区域面積	市街化区域面積割合(%)	市街化調整区域面積	人口集中地区面積	人口集中地区面積割合(%)	指定区域以外面積
長岡市	26,245	22,000	83.8	3,947	15.0	3,937	15.0	18,063	2,100	8.0	4,245
中之島町	4,255	2,700	63.5	184	4.3	184	4.3	2,516	-	-	1,555
越路町	5,844	1,900	32.5	159	2.7	159	2.7	1,741	-	-	3,944
三島町	3,647	1,700	46.6	121	3.3	121	3.3	1,579	-	-	1,947
山古志村	3,983	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3,983
小国町	8,615	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8,615
新市計	52,589	28,300	53.8	4,411	8.4	4,401	8.4	23,899	2,100	4.0	24,289



資料：平成15年新潟県の都市計画

2. 新市の競争力

新市の都市競争力①：
新しい発想力やチャンスを支援する力

地域特性から生まれた匠の技と、新しい試みへの積極性から、新市独自の多様な力を発揮します

■ 立地を活かした積極的な活動が行われています

新市における出荷額の推移では、全般的には減少しているものの、新潟市と比べると減少率は小さく、全国的な低迷の中で、企業努力が図られ健闘しているといえます。

特に、三島町、越路町、中之島町では、新潟県全般で減少する中において、出荷額が伸びています。事業所数の減少は、製造業における物流拠点の統廃合や工場生産の効率化等、近年の企業活動の動向によるもので、一概に産業の不振を表すものではありません。

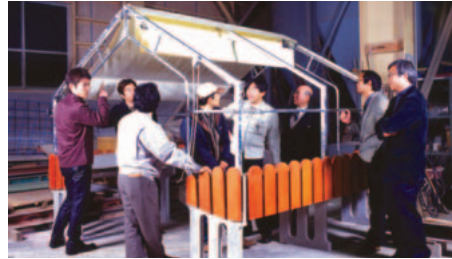
■ 新市の製造業は多様性が高く、新たな産業分野への取り組みも活発に行われています

新市の製造業の特徴としては、精密機械、一般機械、鉄鋼、家具・装備品、衣服などの多分野で特化状況が高く、多様性の高さが見て取れます。

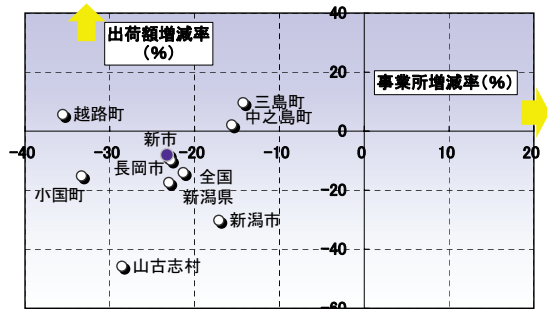
また、県内における従業者数のシェア（割合）が高く、雇用の受け皿が大きいことが分かります。

「長岡産業デザイン研究会」などの異業種交流会では、新製品の開発・研究に取り組んでいます。多様化するニーズへの対応や新しい企業経営に向けた活動が、積極的に行われています。

「長岡産業デザイン研究会」の活動風景

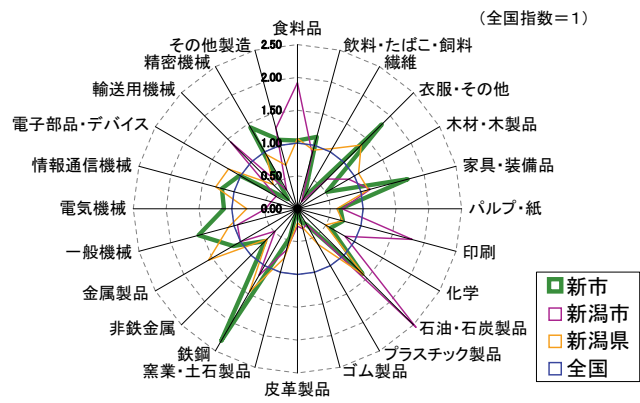


各地域の産業の成長



資料：平成14年 工業統計

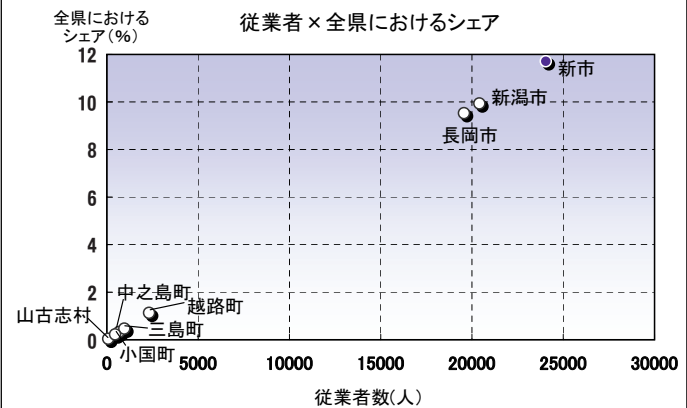
産業中分類別・事業所数特化係数



全国の分野別構成比を1とした場合の数値

資料：平成14年 工業統計

従業者×全県におけるシェア



資料：平成14年 工業統計

新市の都市競争力②：

**人づくり・まちづくりから
都市の魅力を高める力**

地域の暮らしの視点からの発想は、
新市の人づくり・まちづくりにつな
がり、まちの魅力を高めます

■ **にぎわいのある魅力的なまちづくりにつながる、人づくりを進めています**

中心市街地では、商店経営を目指す意欲的な商業者の卵たちが、チャレンジショップ「リード・ブロー」で、周辺の先輩商店主からのアドバイスのもと、経営のノウハウを学びながら独立開業を目指しています。チャレンジショップを巣立った人たちによる個性的で魅力あるお店が、まちなかに新しい風を吹き込んでいます。

■ **新市の商業ポテンシャルは、非常に高い可能性を持っています**

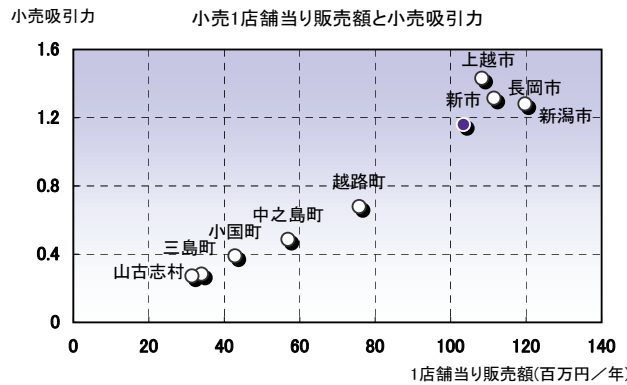
新市の小売業1店舗当たり販売額及び小売吸引力は、全県において高い水準にあります。合併による一体的整備や商圈の広域化、小売吸引力の強化等、現在でも高い吸引力を示している長岡地域では、さらに求心力が高まることが期待されます。

また、販売額構成比では、衣服や身の回り品といった身近な商品の割合が全国平均を上回っており、地域の小売業の特徴が表れています。

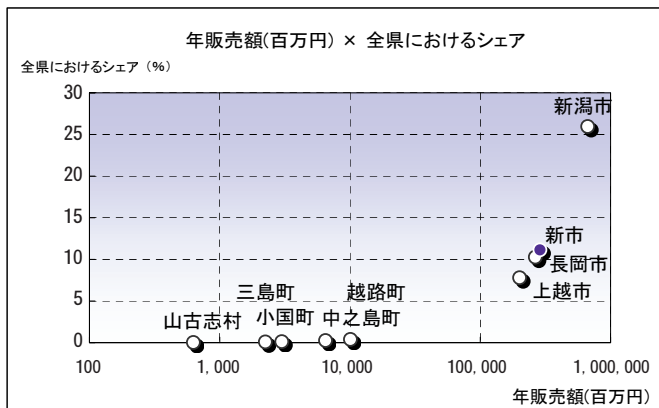
小売吸引力とは、その地域が他の地域から、どの程度購買力を相対的に吸引しているかを示す係数で、
商業人口 ≥ 行政人口の場合、1.0以上
商業人口 < 行政人口の場合、1.0未満

小売吸引力 = $\frac{\text{市民1人当たりの販売額}}{\text{県民1人当たり販売額}}$

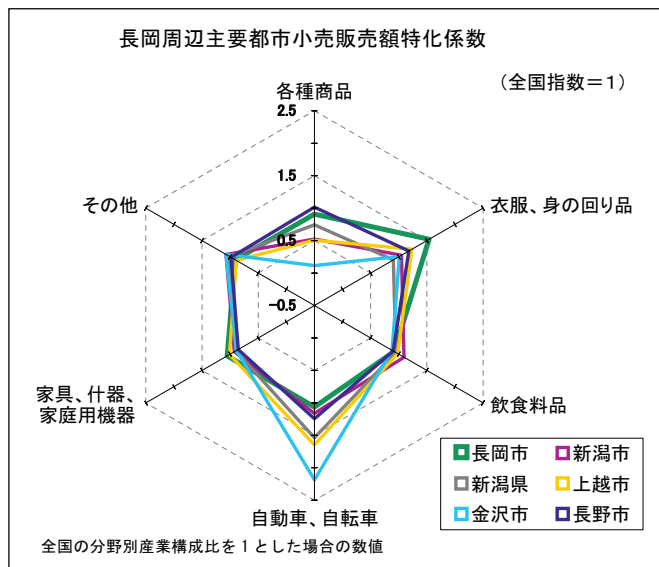
中心市街地でのチャレンジショップ開店



資料：平成14年 商業統計



資料：平成14年 商業統計



資料：平成11年 商業統計

新市の都市競争力③：
地域の底力、米の生産力は
地域ブランドを後押しする力

新潟県を代表する農産物でもある米の生産力の高さは、ブランドを育てるパワーの源となっています

■ 地域を代表する農産物は、人々の交流、観光や食品産業などの振興にもつながっています

自然豊かな田園景観や地域資源を活かしたグリーン・ツーリズム事業などにより、都市との交流が活発に行われ、体験交流による観光振興、農産物ブランド育成や食材PRにつながっています。

■ 新市で収穫される米は、新潟県全体の消費量の約4ヵ月分です

新潟県を代表する農産物である米の粗生産額は新潟市を上回り、新市を構成する市町村のうち5町村で県平均を上回っています。

新市で収穫される米（水稻）の量は、1人当たりの年間消費量で換算すると、1年間に約80万人が消費する量に相当します。

■ 米を中心とした産地力の高さは、地域の底力

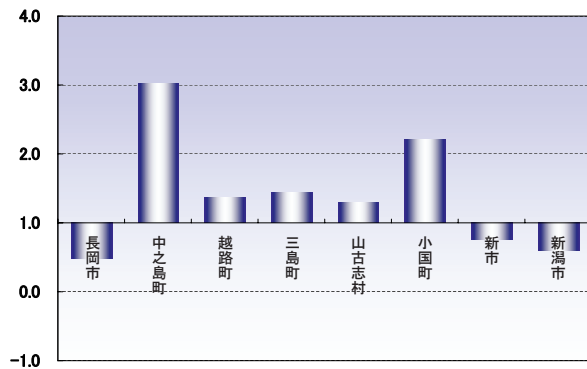
新市の農業粗生産額は、新潟市を上回り、1戸当たりの増減率でも新潟市を上回る地域があります。

また、一部のカントリーエレベーターでは、人工衛星によるタンパク含有量予測値をもとにしたサイロ別仕分けや、減農薬・減化学肥料の特別栽培米などの貯蔵ができ、米は地域の底力として、地域らしさ・ブランド力を育てていく力となっています。

「グリーン・ツーリズム事業」で都市と農村の交流



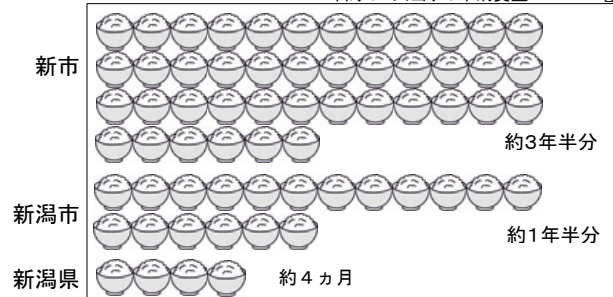
人口当たり米粗生産額（県値=1指数）



資料：平成14年 農業産出額及び生産農業所得

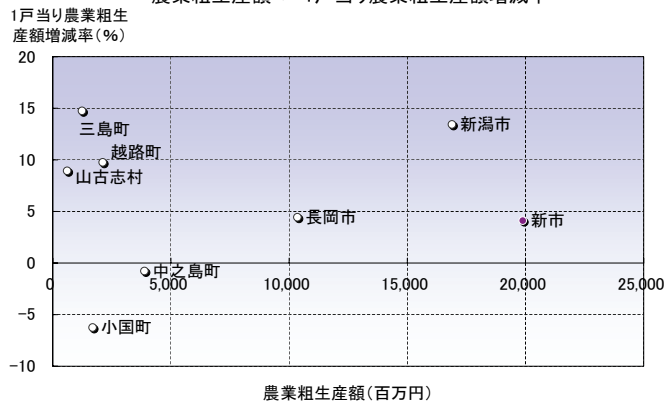
新市でとれるお米は何年分？

年間の1人当りの米消費量=64.6kg



資料：平成15年 水陸稲生産統計及び耕地面積統計（北陸農政局新潟統計情報事務所）
 米麦データブック2002（食糧庁）

農業粗生産額 × 1戸当り農業粗生産額増減率



資料：平成10年、平成14年農業産出額及び生産農業所得

3. 新市の暮らしやすさ

新市の暮らしやすさ：
人と自然にやさしい環境を
地域で守り育てる力

都市の利便性と自然の恵みを受けた新市は、暮らしやすさを伝えていくことにも注目しています

■ 汚水処理における環境に対するやさしさは全国・県平均以上、住民主導の取り組みも進んでいます

新市の環境に対するやさしさを見る指標の一つとして、汚水処理施設整備率をみると、全国や新潟県の平均を大きく上回っています。

さらに、NPO 法人「地域循環ネットワーク」等では、学校や保育園などから出される調理残さをボランティアで収集し、家畜の飼料として再利用するリサイクル活動を行うなど、循環型社会の構築に向けての活動が住民主導で行われています。

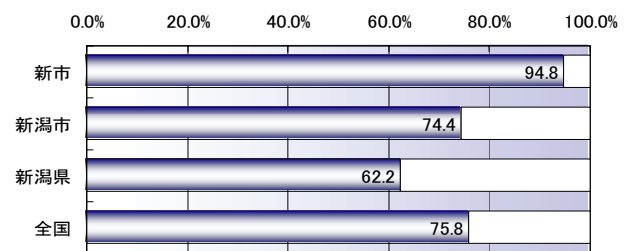
■ 「犯罪」、「交通事故」で新潟県の平均を下回っています

新市の住民の「安全・安心できる暮らし」を支えていく力を「犯罪」、「交通事故」という住民生活を脅かす出来事からみると、新市の「犯罪」発生の度合いはとて低く、住民が安心して暮らせる環境にあります。また、「交通事故」の発生度合いは、全国平均、新潟県平均を下回っており、安全で安心した住民の暮らしを守る力、支える力があるといえます。

NPOによる環境への取り組み

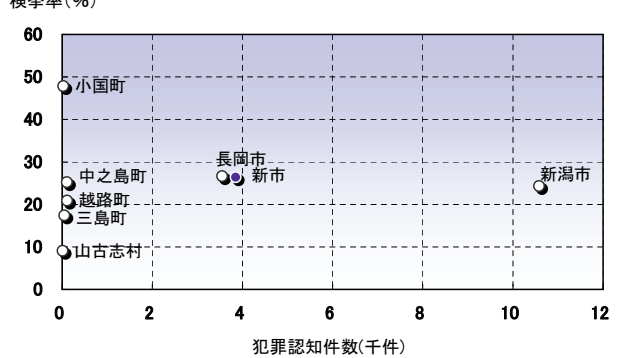


汚水処理施設整備率



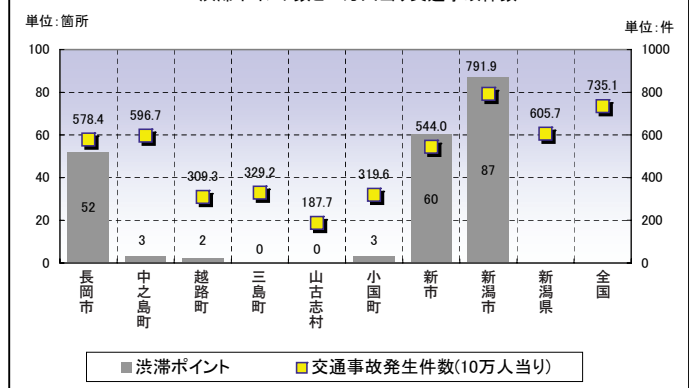
資料：平成15年版 新潟県統計データハンドブック
 平成14年度 国土交通省、農水省、環境省提供
 ※汚水処理施設整備事業とは、下水道、農・林・漁業集落排水施設、コミュニティ・プラント、その他集合処理施設及び合併処理浄化槽の処理人口の割合

検挙率(%) 刑法犯罪認知件数と検挙率



資料：新潟県統計年鑑
 平成12年 新潟県の犯罪（新潟県警察本部）

渋滞ポイント数と10万人当り交通事故件数



資料：国土交通省北陸地方整備局提供
 交通年鑑（新潟県警察本部）

4. 新市の人を育てる力

新市の人を育てる力：
地域の暮らしを大切にして
地域の中で広げる力

地域の視点を最大限に活かしているから、継続力のある活動が着実に根付いています

■ 地域に根ざした住民主導の活動が特徴であり、強さです

「咲かそう花を、育てよう緑を」をキャッチフレーズに、花と緑で住み良いまちづくりと心豊かな人材を育てる運動の輪は、年々広がっています。現在では、200もの市民ボランティアや緑化団体が公園や街路、また保育園、幼稚園、小・中学校、事業所の花壇に、約8万本の花を植えて管理しています。また、毎年5月には「花いっぱいフェア」も行っています。

■ 住民自らが生涯教育を支え、人を育てることを重視しています

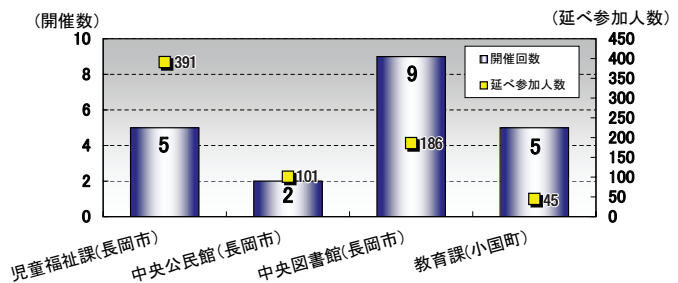
生涯教育を支える力となる、ボランティア養成講座の平成15年度実施回数は、長岡市、小国町において計21回となっています。

行政出前講座を合わせると、年間で100回ものボランティア活動支援が行われています。新市では、こうした住民視点の地域に密着した活動が活発に行われています。

市民ボランティアによる「花いっぱい運動」



ボランティア養成講座（平成15年実施回数）



ボランティア養成講座の内容

市町村	主催	講座名
長岡市	児童福祉課	ファミリーサポートセンター会員養成講習会 サークルリーダー研修会
	中央公民館	ボランティア体験講座 紙芝居ボランティア講座
	中央図書館	読み聞かせボランティア養成講座
小国町	教育課	子育て支援ボランティア養成講座

行政出前講座の実施状況

市町村名	開始年度	平成15年実施回数	内容
長岡市	平成13年	89	健康、子育て、生活、観光、産業、スポーツ、情報公開
小国町	平成12年	10	伝統文化、福祉、くらしと下水道、パソコン

施設ボランティアの実施状況(平成15年度)

市町村	施設ボランティアの活用している施設と登録人数						合計人数	ボランティア養成講座	行政出前講座の実施回数
	公民館	図書館	体育館	博物館	青少年教育施設	その他			
長岡市	19	37			1	11	68	16	89
中之島町							0		
越路町	3						3		
三島町							0		
山古志村							0		
小国町		4					4	5	10
新市計	22	41	0	0	1	11	75	21	99

資料：長岡地域合併協議会事務局調べ

5. 新市の交流する力

新市の交流する力①：
豊かさと多様性の高い地域資源
交通利便性の高さによる拠点力

広域交通の利便性が高く、豊かで多様性の高い地域資源を最大限に活かせる環境があります

■ 北陸において新市は交通結節点、要衝としての位置づけは高い

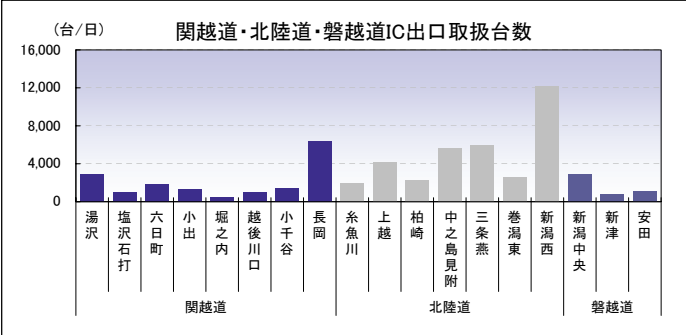
関越道の長岡インターチェンジ、北陸道の中之島見附インターチェンジの出口取扱い台数は、他のインターチェンジと比較して高い状況にあります。

また、新市の各地域から高速道路インターチェンジへのアクセス時間をみると、約20分以内となっており、物流や観光活動などにおける広域交通の利便性は高い状況にあります。

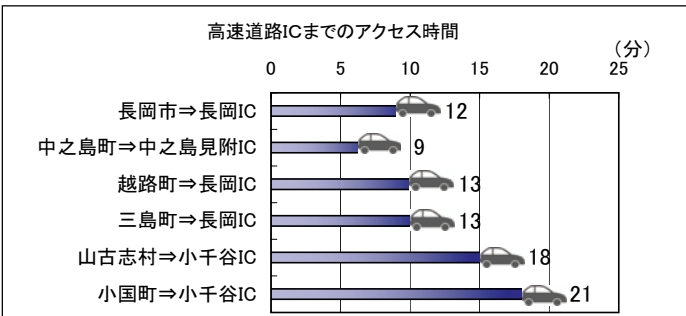
■ 四季折々の自然景観から、多様性の高い観光活動を提供しています

新市の観光入込み規模は、新潟市の約半分程度ですが、近年では県外の訪問客が急速に伸びている地域もみられるなど、さまざまな地域特性や資源を活かした多様な観光活動を提供しています。

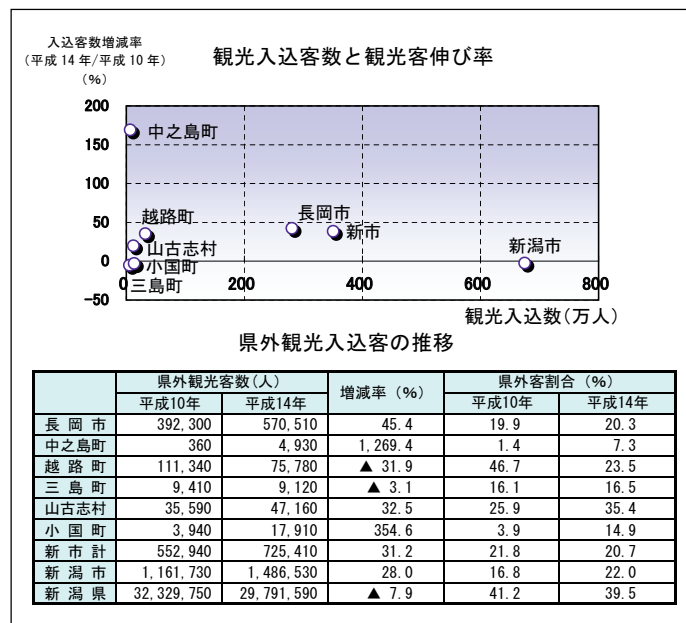
四季折々に美しい景観美を見せる棚田の風景は、日本景観学界現地研修会会場にも選ばれるなど、学術的な評価も高いものです。



資料：平成15年 JH新潟支社提供



資料：平成15年度 長岡地域振興計画



資料：平成14年度 新潟県観光動態の概要

新市の交流する力②：
人を育てる土壌と知恵を語り、伝えていく継続力

地域に伝わる知恵を語り伝えていく土壌は、世代間交流につながり地域に活力を育みます

■ **地域に開かれた学校に代表される独自性の高い交流は、人を育てる土壌となっています**

新市には、地域の人々が先生となり、自然や伝統文化などを教える総合学習を積極的に行っていく土壌があります。先人の知恵の重要性を理解し、次代を担う子どもたちへと継承していくことを大切にすると心と仕組みが根付いているのです。

また、このような地域と学校が一体となった教育環境づくりは、世代間の交流も活発にしています。

■ **新市では、他市町村からの流入は減少していますが、地域内の交流は増加傾向にあります**

新市における通勤通学流動では、構成 5 町村から長岡市への通勤通学流入人数は増加する傾向にあり、地域内の交流が活発化していると推測されます。

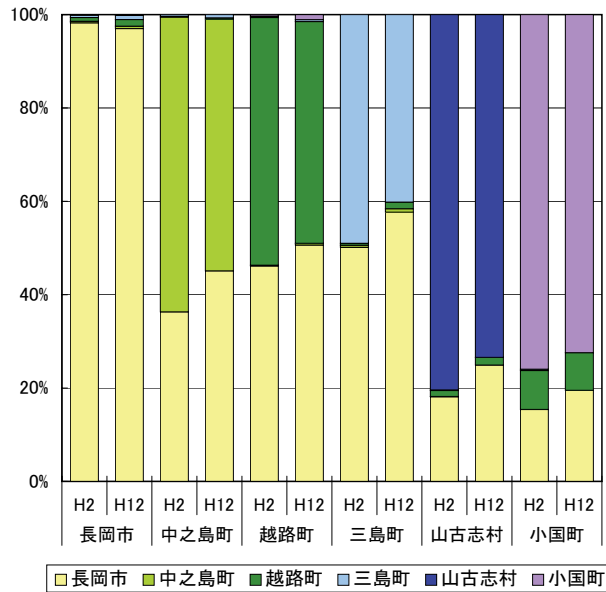
通勤通学圏域では、新市を構成する6市町村を越えて広がりを見せていることから、雇用や教育の受け皿としての位置づけの高さを表しています。

新市では、地域全体が一体になり、広域を対象とした事業や整備を進めることができることから、地域交流は今後一層の広がりを持つ可能性があります。

「地域に開かれた学校」は人を育てていく大切な財産

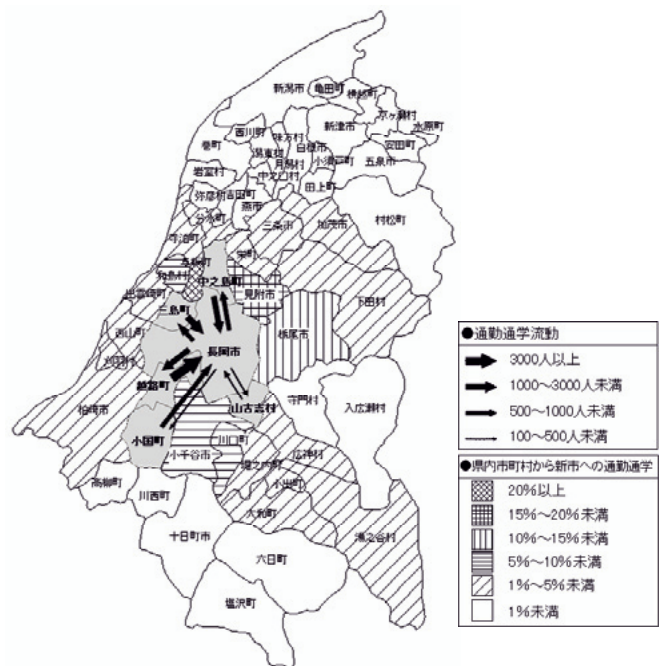


新市内の通勤通学流動の状況



資料：国勢調査

新市内、県内通勤通学流動の状況



資料：平成12年 国勢調査

新市の交流する力③

**地域から、世界まで
新しい視点は新しい力を生む**

地域の人を育てる心とパワーが、
生活圏の拡大に伴い、新しい次元
へと向かっています

**■ 新市になり、さらに国際交流の幅
が広がります**

長岡市における国際交流は、主に青少年を対象に、姉妹都市・友好都市であるアメリカフォートワース市、ドイツリアー市・バンベルク市との間で訪問・受け入れ事業を実施してきました。昭和62年にフォートワース市との交流を開始して以来、延べ3,700人の市民が行き来し、教育、文化、スポーツと幅広い分野で交流を続けてきました。今後は、小国町の姉妹都市であるスイスロマンモティエ町との交流に加え、アジア諸国との交流も視野に入れて事業を展開します。また、新市における広域的な地域連携も深めながら受け入れ体制を整え、さらなる積極的な国際交流を推進します。

■ 地域コミュニティの強さを活かした、全市的な活動への転換が期待されます

新市は、地域コミュニティの強さを持っていることもあり、市民活動の積極性がNPOなどの活動に現れにくいという実態があります。地域間交流が高まり、地域社会が広域化している中で、地域密着型のコミュニティ活動を基盤とした新市の市民活動は、活動範囲も内容もさらに幅を広げていく可能性があります。

小国町と友好関係にある武蔵野市から寄贈された貴重な本を収蔵している小国町愛蔵書センター

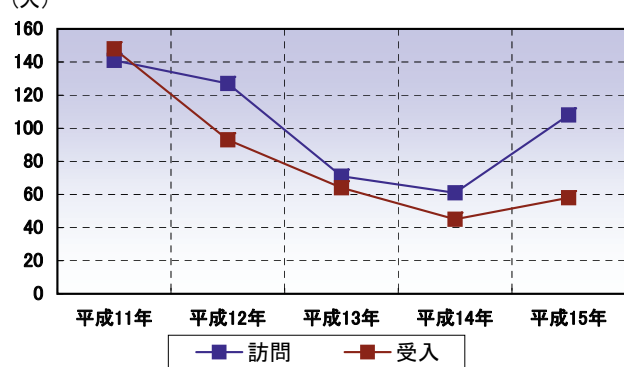


新市の「姉妹都市・友好都市」



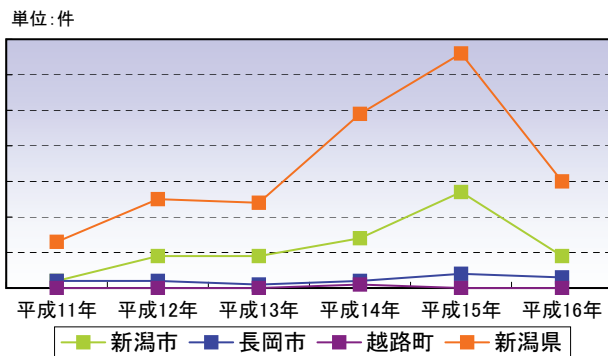
資料：長岡地域合併協議会事務局調べ

姉妹都市・友好都市交流状況（訪問受入の推移）



資料：長岡市国際交流協会

NPO認証推移



資料：内閣府 NPO 関連ホームページ資料